
[成果情報名] シンテッポウユリの9月出荷のための定植時期および育苗方法

[要約] シンテッポウユリ「西尾エクセレント」は、6月上旬に慣行育苗苗、6月中旬に冷房育苗苗を定植すると、9月に出荷できる。購入苗利用では6月中旬の冷房育苗苗定植、自家育苗利用では6月上旬の慣行育苗苗定植と6月中旬の冷房育苗苗定植で高所得が見込める。

[キーワード] シンテッポウユリ、9月出荷作型、定植時期、育苗方法

[担当部署] 苗木・花き部；花きチーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 花き

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

シンテッポウユリ新品種「西尾エクセレント」は開花揃いが良く切り花品質に優れ、生産性の高い品種として作付けが増加している。さらに、「西尾エクセレント」は5月以降の高温期定植でも節間伸長するため、従来品種では困難であった9月出荷作型の品種として期待されている。しかし、9月出荷技術は確立されていない。

そこで、9月出荷が可能で収益性に優れる定植時期および育苗方法を明らかにする。

(要望機関名：八女普 (H29))

[成果の内容・特徴]

1. シンテッポウユリ「西尾エクセレント」は、①6月上旬に既存の施設で育苗した慣行育苗苗を定植する、②6月中旬に冷房育苗(昼25℃、夜15℃、5月1日から冷房開始)苗を定植する、③6月中旬に冷房育苗苗を定植前に2週間冷蔵(5℃)後定植すると、9月に出荷できる(図1、2)。
2. 9月の最上位階級(2L3-5輪)の開花株率は、6月中旬の冷房育苗苗定植および6月上旬の慣行育苗苗定植で6月中旬の冷房育苗+苗冷蔵2週苗定植と同等以上になる(表1)。
3. 10aあたり所得は、購入苗利用では6月中旬の冷房育苗苗定植が6月上旬の慣行育苗苗定植および6月中旬の冷房育苗+苗冷蔵2週苗定植より高い。自家育苗利用では、6月上旬の慣行育苗苗定植および6月中旬の冷房育苗苗定植が6月中旬の冷房育苗+苗冷蔵2週苗定植より高い(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. シンテッポウユリ「西尾エクセレント」の9月出荷における安定生産技術として活用できる。
2. 冷房育苗苗は定植直後の高温の影響を受けやすいため、かん水を十分に行う。
3. 本技術は6月上旬定植を6月5日、6月中旬定植を6月14、15日に行った結果である。

[具体的データ]

定植時期	育苗方法	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
6月上旬	慣行育苗	○	△	□
6月中旬	冷房育苗	○	~~~~~	△	□

○：播種、.....：催芽処理、~~~~：冷房育苗、△：定植、□：収穫

図1 シンテッポウユリ「西尾エクセレント」9月出荷作型図

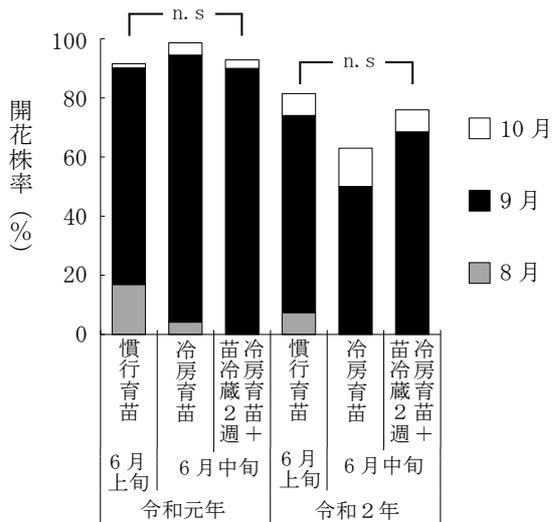


図2 定植時期および育苗方法が時期別開花株率に及ぼす影響（令和元、2年）

注) 1. 9月の開花株率は逆正弦変換後のKruskal-Wallis検定により、n.s.は有意差なし

表1 9月の2L3-5輪規格の開花株率（令和元、2年）

定植時期	育苗方法	開花株率 (%)	
		元年	2年
6月上旬	慣行育苗	18	19 b
	冷房育苗	36	24 a
6月中旬	冷房育苗+苗冷蔵2週	33	4 c
分散分析		n.s.	*

注) 1. 2Lは切り花長100cm
2. 開花株率は逆正弦変換後の分散分析により、*で5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なし
3. Tukeyの多重比較検定により、同列異文字間は5%水準で有意差あり

表2 9月出荷作型の10a当たりの経営試算

定植時期	育苗方法	粗収益 (万円)	経営費 (万円)		所得 (万円)	
			購入苗	自家育苗	購入苗	自家育苗
6月上旬	慣行育苗	234	180	148	54(108)	86(123)
	冷房育苗	248	181	161	67(134)	87(124)
6月中旬	冷房育苗+苗冷蔵2週	227	178	158	50(100)	70(100)

注) 1. 10a当たり33,000本定植
2. 粗収益は、月別輪数別販売単価（JA全農ふくれん販売実績5ヵ年平均（平成28～令和2年））と月別輪数別開花株率（栽培試験2ヵ年平均（令和元、2年））から試算
3. 労働単価900円/時間で試算
4. ()内は6月中旬の冷房育苗+苗冷蔵2週定植に対する所得の比率
5. 参考：盆出荷作型（購入苗）の所得46万円

[その他]

研究課題名：シンテッポウユリ新品種の作型適応性と栽培技術確立

予算区分：経常

研究期間：令和2年度（平成30～令和2年）

研究担当者：瀬戸山修仁、巢山拓郎